

ホテル運営代行・買収拡大

16年12月期までに 施設数3倍に

ホスピタリティオペレーションズ

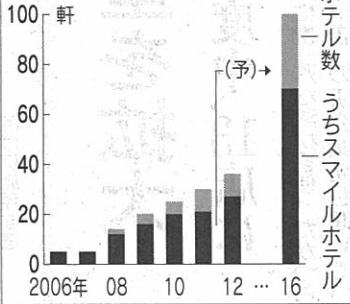
ホテル運営を手掛けるホスピタリティオペレーションズ(東京・千代田、田中章生社長)は運営する宿泊施設数を拡大する。経営環境が厳しい中小ビジネスホテルの運営代行や買収などを全国で積極化、2016年12月期までに運営施設数を現在の31から100に増やす。4年後に現在の3・5倍の事業売上高250億円を目指す。

今夏までに仙台・名古屋・大阪に営業拠点を新設、拠点数を5つに増やし、ホテル関連の情報収集力を引き上げる計画にしている。希望するホテルにはホスピタリティオペレーションズが手掛ける共通ポイントカードサービスを利用できるようにする。

中小ホテルの運営を受託し、出店を拡大する(大阪府吹田市)



ホスピタリティオペレーションズの運営宿泊施設



「Aカード」の名称でホスピタリティオペレーションズが提供しているサービスで、宿泊の頻度に応じてポイントを付与、ポイントがたまると現金と交換できる仕組み。Aカードの加盟ホテルになれば、顧客への訴求力が向上し、ホテルや宿泊施設の稼働率の向上も見込める。ホスピタリティオペレーションズは共通ポイントカードシステムを通して複数のホテルとつながりをつくり、同グループへの傘下入りを促すきっかけとしていく。

買収したホテルはもろん運営代行するホテル

も「スマイルホテル」のブランドで展開する。ホスピタリティオペレーションズが同ブランドで運営するホテルは現在22あり、16年12月期にはこれを70にまで拡大する計画だ。

企業収益の悪化などで国内のホテル需要は低迷が続く。運営規模の拡大により売上高を拡大するとともに、歯ブラシやシヤンパーなどの仕入れを共通化、コストの引き下

げを狙う。約200の中小ビジネスホテルでつくる全日本シティホテル連盟(東京・品川)によると、加盟ホテルの11年の客室稼働

率は06年比3・4%低下の66・7%。08年のリーマン・ショック以後の出張抑制などが響き、経営環境は厳しい。「スマイルホテル」なる

どのビジネスホテルが約70店となると、東横イン(東京・大田)やルートインジャパン(東京・品川)などに次ぐ規模にな